



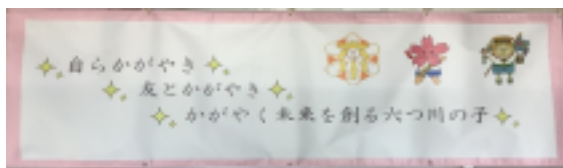
# 学校だより春休み号

令和8年3月25日  
横浜市立六つ川小学校

学校教育目標

自らがやき 友とかがやき かがやく未来を創る六つ川の子  
(地域を愛し、主体的に考え行動する人を育てます。)

ホームページ <http://www.edu.citv.vokohama.lg.jp/school/es/mutsukawa/>



## 一年間の成長、そして次の一步へ

副校長 安齋 登美子

大岡川沿いの桜もほころび始めてきました。つい1か月ほど前には、寒さの中にも静かに新芽を吹いていた頃を思い出します。冬の厳しい寒さに耐えながら、花開くタイミングに備えている姿に見ているこちらも咲き誇る姿を想像し期待がふくらむと同時に、次へのエネルギーをしっかりと蓄え、来たる時に向けて着々と確実に生長をとげていく姿に静かな感動を覚えます。

2月の終わりから3月の初めにかけて行われた、今年度最後の授業参観『学びの成果を発表する会』には多くの保護者の方や地域の方に来校いただきました。



一年間の学びの成果を披露する場として、子どものどんな姿を見ていただくか、担任として悩ましい中にも目の前の子どもとともに、1時間をどう創り上げていくかを考える楽しさもあるところです。

『学びの成果を発表する会』の1時間は、子どもたちの個々の頑張りを見ていただく時間、個々の役割をもとに少人数のグループで取り組んできたものを見ていただく時間、学級全員で一丸となり発表するものを見ていただく時間。各学年・学級がそれぞれの取組に応じた1時間が計画されていました。子どもの発達段階に応じて、また、取組の内容に応じて、どの発表の形態をとるのかはそれぞれですが、いずれも、子ども一人一人にとって「自分の発表」にどう向き合うかが問われてくることになります。当日に向けて、自分の発表に自信をもって臨めるよう地道に練習する子もいれば、人前で発表することへの不安を募らせる子もいます。また、人前で話すことが苦ではなく、普段のようにこなしていく子もいます。自分を表現する手段の一つとして人前で発表すること、その姿を大人に見ていただく場は、子どもの成長の一つの機会であると考えます。発表の前の逃げ出したくなるような緊張感。発表をやりきった際の達成感。聞いてくれる仲間や見守る大人の存在への安心感。これらの一つ一つは、発表前と後の子どもを確実に変えます。当日残念ながら欠席などで発表ができなかったとしても、それまでの練習の努力や思い悩みながら発表に向けて取り組んできたことそのものが、本人の成長の支えになります。『見に来て。』と言われたんだよ。との、登校の見守りをしてくださる地域の方の言葉からも、日頃の成果を見ていただけることを前向きに受け止めることのできる六つ川の子どもたちにとって、この『学びの成果を発表する会』は、日常の授業の中の非日常の一つとして、大事にしていきたい時間であると感じます。

そして、その集大成が、先日の6年生の卒業証書授与式でした。

よびかけの言葉を仲間と練り上げるところから始まり、練習の過程で「今までより声を出して言えた。」と振り返る姿が見られたと、担任から聞いています。どの子も、その子なりに練習に向き合う姿を伝え知り、頼もしさとともに私も身の引き締まる思いでした。予行練習では、参加していた5年生に向けて、よびかけと歌声を披露する6年生の姿がありました。「6年生、すごい！」と、目を輝かせる5年生が、6年生の思いを全力で受け止め、自分たちの歌声を響かせる姿も見られ、よい引継ぎの場となりました。そして、式当日。堂々と前を向いて歩く姿、自分の言葉として発するよびかけの一言一言、迫力のある歌声。全ての姿が、重ねてきた練習の成果と予行を超える意気込みの表れであり6年間の学びの集大成として、6年生の学年目標「風雷意努(プライド)」を体現した式であったと思います。

最後になりましたが、この一年間、六つ川の子どもたちとともに支えてくださった保護者の皆様、地域の皆様お一人お一人にこの場をお借りして感謝申し上げます。そして、来年度もよろしく願いいたします。